



新刀剣博物館(左上)と旧安田庭園の模型 (設計/横総合計画事務所)

# 待たれる新刀剣博物館のオープン 業界の問題解決に向けて日刀保と協議

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



平成二十四年四月に公益財団法人として新たなスタートを切った日本美術刀剣保存協会小野裕会長。以下、日刀保は「和」の精神の下に公益目的事業の推進と刀剣文化のさらなる普及のため、積極的に関係機関、業界各

団体との連携を深めています。設立から六十七年、絶えず変革が求められ、戦後の日本再生とともに歩んできた日刀保ですが、現在、刀剣博物館の移転という最大の事業に臨んでいます。そのように慌ただしい最中に

もかかわらず、当組合との会話の機会を二月二十七日に持つていただきました。日刀保より小野会長・柴原勤専務理事・福本富雄常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事と筆者が出席しました。

初めに小野会長より、移転に関する進行状況が報告されました。前回の会合では、移転に関する財務収支はかなりの寄付金を要することでしたが、今回の報告では当初の設計を変更することなく、日刀保の基本財産等で移転が行えるよう、予算案を大きく見直したということでした。

今後、寄付金を広く受けてはいきますが、前回の内容ほどの移転費用の収支差がなくなりました。この案件は組合としても無縁ではなく、大変心配していただけに、まずは安堵しました。新刀剣博物館の施工には既に

戸田建設が選定されており、平成二十八年三月に着工し、二十九年春に完成する予定だそうです。現在は埋蔵文化財の調査が進められており、間もなく終了するとの報告もいただきました。開館については詳しく言及されませんが、建物の完成後おそらく一年を要するのではないかと推測します。

新刀剣博物館は隅田川沿いに位置するため、河川が氾濫した場合の水害対策について伺いましたところ、江戸時代より隅田川の水を引く潮入回遊庭園となっており(現在は地下貯水槽よりポンプを使用)、もし園内に隅田川の水が流入してきても園外へ自然に排水できるような構造になっているようです。

江戸時代、本庄氏によって大名庭園に築造され、明治に入り安田財閥が維持してきた名園を、今後は刀剣博物館を訪れる世界の人が楽しめることは、大変喜ばしい限りです。

墨田区より借地するため、日刀保が地代を支払いながらの運営となりますが、一方、三階建ての一階部分は、墨田区民の憩いの広場として有意義に活用されるために、地代はその分考慮される金額と伺いました。

新刀剣博物館は地域情報コーナーやカフェなど、地域交流の場としての機能に加え、国際文化交流の場としても大きく貢献し、近隣の美術館・博物館なども提携することで、新たな多くの来館者で賑わうことになりそうです。

刀剣類の審査には、受付から鑑定書発行まで多くの業務があり、その作業を正確にこなすにつ、いかに時間を短縮できるかが、大きな課題です。組合として、その時間というキーワードに何か協力できないかと提案をいたしました。

2015.5.15 No.23  
発行人 深海 信彦  
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
新宿スカイプラザ1302  
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
http://www.zentosho.com/

第23号編集担当  
赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生  
大平 将広 嶋田 仲夫 清水 儀孝 生野 正  
新堀 賀将 瀬下 明 瀬下 昌彦 土子 民夫  
綱取 謙一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦  
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

第28回通常総会では役員改選があります  
多くの組合員のご出席をお願いします

組合員の皆さまには、日ごろより組合活動に対して多大なるご協力と深いご理解をいただき誠にありがとうございます。

さて、第二十八回通常総会  
は来る五月十七日(日)午前十時より、東京美術倶楽部において開催します。前年にも増して皆さまのご出席をお待ちします。

なお、総会終了後、特別交換会を開催します。

当日の議事次第は次の通り。

- ①開会の辞
- ②出席状況報告
- ③理事長挨拶
- ④議長選出
- ⑤議事宣言
- ⑥資料確認
- ⑦議案審議

(第一号議案) 平成二十六年年度事業報告承認の件、平成二十六年会計報告承認の件、監査報告  
(第二号議案) 平成二十七年年度事業計画決定の件  
(第三号議案) 平成二十七年年度収支予算決定の件  
(第四号議案) 役員報酬の件  
(第五号議案) 経費の賦課及び徴収に関する件  
(第六号議案) 平成二十七年年度借入金残高の最高限度に関する件  
(第七号議案) 一組合員に対する貸付、また一組合員の為にする債務保証残高の最高限度に関する件  
(第八号議案) 役員改選に関する件  
(第九号議案) その他  
(第十号議案) 総会議事終了宣言  
⑨閉会の辞

刀剣・書画・骨董  
**和敬堂**  
土肥豊久・土肥富康  
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
TEL 0258-33-8510  
FAX 0258-33-8511  
http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商  
**やしま**  
齋藤雅稔・隆久・隆洋  
刀装小道具通信販売目録「やしま」  
年間10回位発行予定  
購読料10回 2,000円 (郵便切手可)  
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10  
TEL 042-463-5310  
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式  
**柳匠堂**  
**柳村宗寿**  
岡山市北区平和町二一八  
TEL 〇八六二二二二二二二  
TEL 〇八六二二二二二二二  
TEL 〇八六二二二二二二二  
TEL 〇八六二二二二二二二  
TEL 〇八六二二二二二二二  
FAX 〇八六二二二二二二二  
FAX 〇八六二二二二二二二

町田久雄  
三峯美術店  
刀剣古美術  
埼玉県秩父市野坂町一六六一  
西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
TEL 〇四九四二二二二二二  
FAX 〇四九四二二二二二二

大阪刀剣会  
**吉井唯夫**  
大阪市中央区日本橋二一七一  
TEL 〇六一六六三二二二二  
TEL 〇六一六六三二二二二  
FAX 〇六一六六四四一五四六  
FAX 〇六一六六四四一五四六

# 刀 剣 界

刀剣入手後、銃砲刀剣類所持等取締法により名義変更が義務づけられているものの、従来、刀剣所有者の方々にはあまり重要視される傾向にはありませんでした。当組合は警察庁認可の団体でもあり、警察行政に協力するために、組合員・愛刀家の方たちへこの数年、さまざまな機会を捉え名義変更の重要性を訴えてきました。

その結果、東京都の場合、かつて四千振程度であった名義変更申請が、ここ数年は六千振以上と飛躍的に増えました。おそろしく他の道府県でも同じ傾向が見られることでしょう。

しかし、登録証を交付している教育委員会の誤記のために、まま善意の申請者に不都合が生

じています。

新たに所有した旨を届け出る、寸法違いや銘の脱字など、台帳と相違するとの理由で名義変更ができないばかりか、銃刀法違反の犯罪者になりかねない、交付した教育委員会から指摘される現状です。公安委員会まで巻き込み、事件性がないにもかかわらず多くの時間を費やし、その後新規登録として扱われることもあります。

このような問題を何の対処もせず放置しておけば、業界にとって登録制度は負の遺産となりかねません。

しかし、過去の登録証記載ミス問題を、当組合だけで折衝しようとしても解決はきわめて困難です。そこで今後、行政側

問題解決の窓口を設けてもらえるように働きかけたいとお願いました。小野会長からは、そのような問題は、愛刀家の方々が安心して刀剣類を所持するには必要不可欠なことであり、今後大いに協力していきたいとの回答をいただきました。

今回の日刀保との合会は、多くの業界の声を聞き、新刀剣博物館にその声を生かしていこうとする、現執行部の方々の意気込みを伺う有意義な機会となりました。

刀剣業界発展のための、また未来へ伝統文化を継承していくにふさわしい、新刀剣博物館の開館が待ち遠しい限りです。

(嶋田伸夫)

## 読者だより

### 刀は美しい

外山 潤(高一)

僕が刀を見て思ったことは二つあります。一つ目は、刀は奥が深いということです。

刀は、作られた場所や時代によって地鉄の色が変わります。僕が初めて刀を見たとき、いろいろな刀を見てもなかったのですが、その中でも違いはたくさん見つかることができました。

例えば、片山一文字という刀は南北朝時代以前に備前で作られたので、地鉄が青いということに気がつきました。

また、平造りや長巻造りなどの作り方によっても刃文の模様が違ってきます。

刀を見せてくれた方が、「光を当てて見てご覧」とおっしゃって、ライトを刀に当ててくれます。

た。さまざまな角度から光を当てると、いろいろな模様があるように浮かんできました。三日月の模様や、繊細な化粧研ぎが見えました。僕は時間を忘れて見入っていました。

また、戦うためだけでなく、武士の象徴として作られた刀は、あまり研がれていないのか、厚みがあるのがわかりました。さらに、所持者が変わるごとに目釘穴の位置も変わるので、有名な刀工が作った刀でも銘の部分が消えてしまうことがあると教えてもらって、そんなこともあるのかと驚きました。

僕は、刀はとても奥が深いんだなと思いました。

二つ目は、とても美しいということです。

刀身だけでなく、鞘や鐔に施さ

れる装飾がとても精密で神秘的だなどと思いました。鮫皮や金や漆で作られた鞘には職人のこだわりがあり、とてもきらびやかだと思いました。

僕は、刀はどのみでも奥が深いんだなと思いました。刀に出会えて良かったと思います。

#### 【付言】刀とともに

外山潤くんは現在、高校一年生です。私の父が日ごろお世話になっている主治医のご子息で、剣道部に在籍していた当時、三年べらい前が日本刀を手にした最初だと思えます。お顔は興福寺の阿修羅さまさながら(笑)、真剣なまなざしと集中力に驚きました。

「遺産」という言葉があふれています。今日、人は先に進むことばかり考え、あらためて振り返る時間を持つこととせません。日常の雑事をいったん脇に置いて、「時間を止める」そこには心の豊かさがあふれています。先人の尊き思い、先人の心を心とする、そんな機会に少しでも触れるべく、これからは潤くんも日本刀を鑑

## 第10回「アートフェア東京」開催さる

去る3月20日(金)～22日(日)の3日間、東京国際フォーラム展示ホール(東京有楽町)で「アートフェア東京」が開催されました。

10年を迎えた同展には、国内外より140にも及ぶギャラリーや企業などが参加。時代やジャンルを超えた質の高い美術作品に触れることができ、海外のアート見本市に似ていると言えるでしょう。古美術、工芸から近代日本画・洋画、現代アートまでさまざまな作品が集まり、現物はもちろん現代作家と対面し、購入ができる一方、協賛企業の紹介スペースもあります。毎年趣向を凝らしたブースデザイン、品ぞろえに継続ファンも根付き、本年は過去最高の約5万5,000人の来場があったそうです。

発足当初はモダンアートが多かったのですが、近年幅広い分野へ拡大傾向にあるようです。会場で伊藤温氏(伊藤美術)の出店を発見。「展示時間も長く、準備や撤収と大変なことも多いけれど、普段見たくても見られないと思っている刀剣に興味ある方々が、身近に感じてもらえたようで嬉しく思っています」とお話を頂きました。今後の刀剣業界との関わりが注目されます。(伊波賢一)



## 第六回「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」経産省・文化庁などが後援し、鉄の展示館で

第六回「新作日本刀・研磨・外装 刀職技術展覧会」は、主催/公益財団法人日本刀文化振興協会・坂城町の展示館・坂城町、後援/経済産業省・文化庁・長野県・坂城町教育委員会・SBC信越放送・TSBテレビ信州・ABN長野朝日放送・NBS長野放送・上田ケーブルテレビジョン、協力/全日本刀匠会により、五月三十日(出)八月二日(日)、昨年同様坂城町の展示館にて開催されます。

長野県には五件の国宝指定建造物がありますが、このうち二つをこの周辺で見ることが出来ます。一つは鎌倉時代後期に創建された信州最古の禅寺・安楽寺の八角三重塔。ここは「信州の鎌倉」と呼ばれる別所温泉です。もう一つはすぐ近くの青木村にある大法寺三重塔。その美しさで「見返りの

塔」とも呼ばれています。観光とも併せて鉄の展示館を訪れてはいかがでしょうか。

審査会は四月二十二日から三日間、研磨・作刀・外装の順に、経済産業省と文化庁の担当官の立ち会いの下、二十一人の審査員(うち六名は外部審査員)により厳正に行われました。

昨年からは地方開催で出品される方の負担も多くなりましたが、出品総数は昨年よりも増え、皆さまの期待の大きさを感しました。研磨部門では出品数が増えた上に、まれに見る数の名品があらま

した。名品をお借りできることも研師の実力です。それもあって、何度も投票が繰り返されました。その結果、名刀(主に古名刀)の研究こそなしの良し悪しが明暗を分けることになりました。勇気を出して名刀に挑んだことには大変価値があり、真摯に向き合えば大きな飛躍が期待できます。

作刀部門は昨年同様の出品数でしたが、初出品以来、高い評価を受け続けている若手が初めてトップに立ち、新しい風が吹き始めていると感じました。

外装の部門、刀装具・白銀・拵・柄巻・鞘塗り・白鞘の中には刀装具が昨年より多く、他は例



鉄の展示館と源清盛記念碑

年並み。白鞘・刀装具では連続して出品している方の作品に研究の成果が現れ、技術水準の高い仕上がりになっていました。また、白銀・拵・柄巻・鞘塗りでは各部門基本に忠実な作品に仕上がっていました。

出品することには技術の伝承と維持という大きな目標があります。次回も研究の成果を期待します。今年良い成績を獲得した方々は来年以後も続かなければ、本当の実力とは認められません。良い仕事を会得するための努力は一生続くものです。また本意な成績に終わった方々も、次回躍進を目指してご精進願いたいと思います。

昨秋、鉄の展示館の入り口に、刀剣界の方々の熱い思いとご尽力により、立派な源清盛の記念碑が建立されました。

清盛は当時、今のように有名ではなく、水心子や固山の一門より格下に見られていたが、特に戦後になり熱烈な愛好家や刀剣商、また地元の方々の熱意によって脚光を浴びるようになり、幕末を代表する名工となりました。

今年三月、八十九歳で他界した上方落語の巨匠桂米朝は「話す方も勉強が必要だが、聞く方にも責任がある」と話していました。そ

←次ページに続く

組合こよみ (平成27年3~4月)

3月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第22号編集委員会を開催(校正)。

関連行事

- 日本刀に触れてみよう! 古刀から現代刀の名刀を手に持ち、ゆっくり鑑賞しましょう。

のひそみに倣えば、愛好家や刀剣商の方々のご意見は刀職者に良い刺激となりますので、ぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をお願いいたします。

- 金賞第3席 玉置 城二
- 金賞第4席 藤川 二朗
- 金賞第5席 秋田 勇喜



「新作名刀展」授賞式風景

夏到来と言いたくなるような気持ち良いお天気に恵まれた四月二十八日、私は公益財団法人日本美術刀剣保存協会に伺い、「新作名刀展」表彰式を取材してきました。

平成二十七年「新作名刀展」高松宮記念賞効果か、出品数三割増

- 【受賞者】 複数の場合は五十音順
- 【作刀の部】 太刀・刀・脇差・薙刀・槍の部
- 【刀身彫の部】 刀身彫の部では柳村重信審査員が欠席のため、飯田俊久学芸部長が代読されました。

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂 代表取締役 飯田慶久

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑 日本刀 富夫義行 伊波賢一 Ken-ichi Inami

銀座 泰文堂 代表 川島貴敏

刀剣 高吉 代表者 高島吉童

www.premi.co.jp



# シヨウちゃんの健脚商売

## 江ノ島編

ツール・ド・フランスという世界最大の自転車ロードレースを、ご存じだろうか。

フランスの国営放送が届ける映像は、オートバイの後部座席のカメラマンが捉える苦しみに歪む選手の手表情が迫力で知られるが、もう一つの売りはヘリコプターからの映像だ。自転車選手たちが集団で走る様子を空から捉えるそれは、チームを作って飛来する渡り鳥たちのように見える。実は鳥たち同様、先頭以外は集団全体の風の流れに乗り、一人で漕ぐより楽で速く移動が可能で、多くの場合、チーム、成績などを二の次にし、苦しい先頭を順次交代しゴー

ルへと向かっていく。つまりゴール前一キロメートル地点までは助け合いのスポーツなのだ。アマチュアレースでもこの風の団に初めて入ったビギナーサーは、渡り鳥になった気分がロードレースに取りつかれていくという。

今年の一月十一日、俺はサイクリング仲間九人と江の島サイクリングを計画していた。そしてその日の夕方は、靖国神社での実演を終えた現代刀匠の下島房由氏・石田四郎国壽氏らと飲み会という楽しみみの二毛作。はてたフリを自分以外の九人をジャンジャン前に出し、自分は追い風で乗をしよう。

二月二十八日、俺は銀座で研師の小川和比古氏らと会った後、一人で濱崎道代さんに会い江の島に自転車車向かった。ソロで走るのは苦しさ三割増しほどだろうか。

十三時に自宅を出て湘南モノレール江ノ島駅に着いたのは十五時五十分。来た、濱崎さんだ。毎日ここから大久保の組合事務所まで通う彼女だが、毎月十七日の組

大盛況でした。一期会で百本切ったこともたびたびありました。そのころは受付を担当しましたが、目の回るような忙しさで、終了後の会計処理も大変でした。

その後、短刀小品展はお守り刀展に発展し、岡山の備前長船刀剣博物館で開催するようになり、大刀剣市の銘切り実演は刀匠会関東支部が主体で行うことになりました。今では意欲的な若手刀匠が運営の中心となり、開催ごとに手慣れてきて、誠に頼もしい限りです。

# 若者広場

山下浩郎(刀匠)

## 「大刀剣市の銘切りコーナー」は絶好の出会いの場

私が「大刀剣市」の現代刀匠銘切り実演コーナーに参加することになったのは、「短刀小品展」への出品がきっかけです。

短刀小品展はある時期まではデパートで開催されていたのですが、それができなくなり、大刀剣市の会場の一部を提供していただくことで、引き続きコンクールと即売が可能になったのです。

私も小品を出品していたので、足手まといにならないようにお手伝いをさせていただくことにしました。あのころは広いスペースを提供してもらい、たくさん作品を展示していました。ゆっくり見ただけのように、休憩用の椅子も置いてありました。

会場に立って、お客さまへの説明と案内だけでもいい。せっかく全国から有名刀匠が来ているのだから、喜ばれて、少しは全日本刀匠会の財政の足しになればと、文鎮などへの銘切り実演が始まりました。

作品を買わなければ頼めないような刀匠に、少しの金額で好きな言葉や絵などを切ってもらえるようになって

うというチャッカリ作戦(前置きのツールの出場選手にはそんなひどい奴はいない)。しかも昼食を取る江の島の食堂に当組合事務局の濱崎道代さんと呼び出し、『刀剣界』の取材をするという、俺のために世界があるような一日となるはずだった。

しかし、自転車の神様はそんな俺を許さなかった。当日の明け方に三十七度の熱を出し、俺は全部を断念したのだ。

二月二十八日、俺は銀座で研師の小川和比古氏らと会った後、一人で濱崎道代さんに会い江の島に自転車車向かった。ソロで走るのは苦しさ三割増しほどだろうか。



作品を買わなければ頼めないような刀匠に、少しの金額で好きな言葉や絵などを切ってもらえるようになって

大盛況でした。一期会で百本切ったこともたびたびありました。そのころは受付を担当しましたが、目の回るような忙しさで、終了後の会計処理も大変でした。

その後、短刀小品展はお守り刀展に発展し、岡山の備前長船刀剣博物館で開催するようになり、大刀剣市の銘切り実演は刀匠会関東支部が主体で行うことになりました。今では意欲的な若手刀匠が運営の中心となり、開催ごとに手慣れてきて、誠に頼もしい限りです。

■一筆啓上  
大刀剣市の現代刀コーナーで愛嬌のある笑顔で誰にでもわかりやすく説明するあの人が、今回の若者広場に登場となった。そう、若者と言うには少々トウが立った印象となる山下浩郎さん(刀匠銘「浩」)だ。今までのコーナーに登場してもらった若手刀匠の兄貴分と言って差し支えないだろう。

氏との出会いはかなり古いものとなる。葛飾区高砂の吉原義人刀匠の日本刀鍛錬道場で日刀保東京支部の見学会があった時のこと、義人刀

匠の火造りと、子息の義一刀匠の焼入れを見学させてもらった。かわいさで、かいたい説明やお茶出しを笑顔でしてくれた青年が、この山下さんだった。あれは何年前のことだろうか。



湘南モノレール湘南江ノ島駅で濱崎さんと

アシストでできるわけもないが、甘えすぎは禁物だな。そんな彼女の土曜日の昼下りの過ごし方は、何とヨガ。フィットネススタジオに向かっ

三月十三日にオープンしたばかりの日光東照宮宝物館を訪れ、「徳川家康と日光東照宮展」(五月三十一日)を見学した。

平成二十七年は、日光東照宮で五十年ごとに斎行される式年大祭の年に当たり、日光東照宮が四百年式年大祭記念事業の目玉として宝物館を新設した。

# NEWS & TOPICS

## 日光東照宮に新宝物館がオープン

約五十年ぶりに新しくなった宝物館は、高さ十三メートルの鉄骨二階建て、延床面積二七〇平方メートル。総工費二十億円をかけ、屋根の一部には日光杉並木の杉も使われている。

味ではあるが家康公のこだわりが感じられ、まさに「いい仕事してますね」と決めゼリフを言いたくなる見事な梅であった。



オープンした日光東照宮宝物館

ブック・レビュー BOOK REVIEW

八十年前に書かれた刀の本格エピソード集

『怪談と名刀』 本堂平四郎著 東雅夫編

定価(本体五九三円十税) 双葉社

この本は『怪談と名刀』という... 親交を結び、辛亥革命を陰ながら支援したとする逸話も伝えられている。

大正八年、依願退職して一転、実業界に身を投じてからは、さまざまな事業に手を染めることになったのだが、関東大震災などの不運もあり、同十五年に撤退を余儀なくされている。

これ以後、平四郎は実業界の第一線から身を引いて、趣味の刀剣研究や文筆を中心とした生活をする。『怪談と名刀』の元になった連載が、大正十五年に『刀剣と歴史』誌上で始まっている。平四郎は、同誌発行の母体である刀剣保存会の幹事にも名を連ねているのである。

『怪談と名刀』は、怪談をメインテーマとする東雅夫というアンソロジストによって復刊されたのではあるが、実は昨今、刀剣関係の本が新たに発行されたり、増刷されたりしている事情も見逃すわけにはいかない。

『怪談と名刀』は、怪談をメインテーマとする東雅夫というアンソロジストによって復刊されたのではあるが、実は昨今、刀剣関係の本が新たに発行されたり、増刷されたりしている事情も見逃すわけにはいかない。

とりわけ赤坂警察署長時代には乃木希典陸軍大将夫妻が明治天皇崩御に当たり殉死を遂げた際、検視の陣頭指揮を執った時、関東一円に名を馳せたスリの



本堂平四郎著 東雅夫編

私が出会った珍品・優品

大平将広

刀(切付銘)

莊司次郎太郎藤原直勝男弥門直諒謹誌 先人直勝嘗応磯野君寿需殿一口刀刀成 未勒名而為隔世人因代勒先人名云

長さ二尺一寸五分強 反り四分半

一昨年の十月、来店買取希望の電話が入る。 「軍刀なんです、見てもらえないでしょうか」

もちろん二つ返事で引き受け。 錆身だと言う。 内心、どうせ九八式か何かに入った、登録も今じゃ付かないような刀では、と高をくくっていた。

「来店いただき、拝見する。袋から刀を出し、昭和二十七年の古い登録証を確認する。 隙間なく小さな字で書かれた銘文に戸惑う。 まずはモノを見てみよう。」

白鞘はなく、佐・尉官略式刀緒付き野戦革覆いのサーベル型軍刀 拵に刀身が収まっている。 ところどころ錆びていたが、小板目詰んだ無地風に互の目・尖り刃が連れた、軍刀拵によく収まっている類の刀かという印象。 茎を抜くと細整で長文の切付銘がある。 一部に次郎太郎直勝とあり、予想に反した著名刀工の名に驚く。

お客さまと相談の結果、無鑑だ



く、昭和五十五年七月の『名刀図鑑』において藤代松雄氏は、銘鑑には「二代弥門直勝の初銘は直好、三代直勝の初銘も莊司弥門直諒(ナオヨシ)」とあるが、この二代、三代は同一の刀工が誤り伝えられたように思われると唱え、その論を裏証するものとして「次郎太郎直勝作依無銘男直諒銘ス」と記された安政六年(一八五九)の刀の押形を掲げている。

本作は藤代氏の説を補強するものとなり、それぞれの刀工の没年月日、他の現存する年紀入りの直諒銘の作品から推察するに、次郎太郎直勝の二代目の弥門直勝は初銘を直好、または直諒とし、三代目は存在しないと考えるのが妥当である。(詳しくは『刀剣美術』平成二十六年六月号を参照のこと)

刀剣史において、新々刀といえどいまだ不明瞭であった部分が解明されていくのを目の当たりにできたことは非常に貴重な経験であり、感動的だった。

後日、無事商談成立となり、買い取った後、鑑定・研磨・白鞘などの手をかけた。 今年に入ってから、訳あって刀身のみ市場にて売却。 切付銘であること、また、いわゆる代作代銘の類と見られ、思うところまでいかず原価割れとなった。

軍刀拵の中にもこのような珍品が埋まっていること、また珍品ならではの商売の難しさを感じさせられた刀だった。

続・ポーランド訪問記

公益法人日本刀文化振興協会 専務理事 宮人小左衛門行平

研師阿部一紀氏による本紙第十五号の「ポーランド訪問記」は、綿密な報告と多少の旅情も交わって、広い見識を持ついかにも氏らしいものであった。

一昨年の訪問は、残念ながら私は参加できなかったが、阿部氏には同行できなかったが、阿部氏には参加を強く勧めた。これまで日本刀文化振興協会が実施してきた文化庁助成事業における講座や日本刀調査などで中心的役割を担っていた阿部氏の経験は、訪問の目的に適い、必ずや成果を上げると思っただけである。調査の内容は、現状と必要な修理内容的に記されており、今後の交流に欠かせない資料となっていた。

偶然ではあるが昨年、本年三月と、二度ポーランドを訪れる機会を得た。 昨年は全く私的な渡航であったが、先の訪問団の中心的存在であった中国電力・白髭修一氏よりポーランド日本刀部会長ヤツェク氏に伝わり、滞在中に開催された同会の会合に招待された。 その際、二人の新入会員への会員証の授与と、その二人によるプレゼンテーションが行われた。内容はそれぞれ「銃刀法」と「押形の手法とその効用」と題し、驚くほど入念な調査に基づくもので、

初めてポーランドを旅した三十年ほど前のこと、友人になった大學生の家に泊めてもらい、物資が決して豊富ではない社会主義体制下、いつもおいしい食事をいただくなど、彼と両親から多くの親切を受けた。そして毎日コンサートに通い、大好きな音楽をたっぷり堪能した夢のような日々を、三十年ぶりに再会した友人とともに振り返ることができた。彼のおかげでポーランド国民が日本を大好きなことも知った。

ポーランドと私の間にある縁と恩をかたちにしたと思う。そして、



ポーランド軍事博物館にて講演する筆者

ポーランドと私の間にある縁と恩をかたちにしたと思う。そして、

### 交換会紹介 東京美術刀剣商業協同組合市場 拠点は新橋。プラザビル14階

東京美術刀剣商業協同組合市場という名に一瞬ピンと来ない方もいるかもしれませんが、東京・港区新橋にて昭和二十七年に登記、市場鑑札を取得し運営されている交換会市場です。

刀剣登録証発行が昭和二十六年(一部特例を除く)、大戦後のサンフランシスコ講和条約調印の年に始まり、同条約は翌二十七年に発効して正式に日本の独立となるので、ともに六十三年の年月を経過



交換会風景

している長寿市場です。

戦後の美術品取引の中、特に刀剣所持に関わる登録制度が導入されて間もなく、業界の地位向上、正式な流通過程の確立の必要性を痛感し、東京を活動拠点とする先人たちが、協同組合という中にその姿を築いたと言えましょう。市場申請が伊波寛次郎だったのは、設立メンバーの中で公の交渉事に向いていいたからだったようで、飯田国太郎氏、服部栄治氏ら多くの協力者が結集したたまたまだったそうです(伊波徳元理事長談)。

刀剣流通の場として確立される一方、組合組織として早くから警視庁の協力団体「東京都古物商防犯協力会連合会」(東古連)に加え、今も各古物取り扱い業種(宝石・古書・自動車など)との情報交換もしています。

長い歴史の中で、いろいろなことがありました。まず組合事務所と会場は、新橋四丁目にある約十五坪、一階に人が住む木造二階建ての二階に間借りし、後に購入しています。服部暁治さんのお父上の親族もその管理に関わっていたと聞くと、驚きの歴史です。



虎ノ門ヒルズ方面から見た会場

バブル期には、周辺の地上げによる地価高騰で、資産評価に一喜一憂。長年計画が凍結されていた環状二号线(俗称マッカーサー通り)再開計画が開始すると、約三年の移転を迫られました。その間、会場は東京美術倶楽部を借り、略称「東刀会」として市場を継続開催していました。また、それに伴う税務対応と周辺事情の変遷にもまねながら、現在は再開による地権者が多く入居する「新橋プラザビル」に約三十坪のスペースを取得。同ビル完成前から、毎月管理組合設立委員会に委員

として出席し、建築全般や管理規約作成などに関わり、現在は同管理組合で監査を務めています。移転当時から現在まで、温厚実直なお人柄で知られる菅原泰明理事長のご活躍も、当組合の運営に加え、同ビルとの円滑な関係を築いている理由でしょう。

以前の同組合総会で、先人たちの遺志を継ぎ、同地を業界のために有効利用する、と決議され、新橋駅から至近のスペースはいくつかの市場に貸し会場として利用され現在に至っており、ご存じの方も多いと思います。

また、内装にスポットライトレールを付け、会議や勉強会にも対応できるようにしており、利用を受け付けています。新しい環状道路を眼下に眺めるロケーションも、なかなかです。

温故知新。発足意義を尊重し、これからの運営が期待されます。

連絡先 〓〒142-0063 東京都品川区荏原二丁目三三 虹雅堂美術舗内 ☎〇三三七八一六五八二



壮大な朝日酒造の酒蔵

「久保田」「朝日山」と聞いてピンと来る人もいるでしょう。毎日晩酌をしている方でしょうか。そんな皆さんに、わが新潟の蔵元、朝日酒造をご紹介します。

朝日酒造は天保元年(一八三〇)、現在の蔵元がある新潟県長岡市の広大な土地に久保田屋という屋号で酒造業を始めます。朝日というのは地名で、ここは寒暖の差が大きく、おいしい米が育つのに最適な気候な土地だったのです。大正九年に朝日酒造株式会社を設立し、昭和六十年に「久保田」の販売を始めます。久保田の名前は昔の屋号だったのです。さらに平成十二年には「越州」を発売。ロングセラーもありますが、現在も季節限定のお酒を造り、美味しいお酒造りの研究に余念がありません。

朝日酒造の従業員は百八十人ほどで、そのうち八十人は製造スタッフです。その八十人で年間約四万石、一升瓶に換算すると四百万本を生産しています。

瓶詰めは人の手を必要とせず、しかも一時間に一升瓶四千本もこなします。人の手を必要としないのは、清潔で安全な商品をお客さまに届けるためでもあるのです。酒の仕込みは杜氏さんの職人技という側面が強いのですが、機械を導入することで、より良い品質で私たちの元へ届くわけです。

朝日酒造は、地元の人、地元の水、地元のお米によって酒を造るといふことにこだわっています。そして、高級酒だけではなく、皆が楽しく飲める普通のお酒のレベルを引き上げ、値段は高くなっても

日本酒本来の味が楽しめる、そんなお酒を造りたいというのが朝日酒造の思いだそうです。

予約すれば酒蔵見学で製造工程を見ることができ、また予約がなくても、びん詰め工程の見学ができます。朝日酒造の敷地内には、酒粕を使った料理やへぎ蕎麦を出してくれる産庵という料理屋もあり、お酒を飲みながら味わえます。帰りはお酒はもちろん米、酒、酒粕、麴などを使った酒の肴やお菓子なども販売している売店もあり充実しているので、お土産には困りません。

朝日酒造のすべ裏には紅葉園といい、名前の通り秋には紅葉で見事に赤く染まります。その秋口に紅葉狩りを兼ねて新潟の酒蔵を訪れてみてはいかがでしょうか。



有紀美術の店舗ビル



濱崎善弘さん

今回紹介するのは、兵庫県尼崎市で店舗を構え、長く営業しておられる濱崎善弘(はまさき・よしひろ)さんです。

昭和十九年生まれで、古美術の世界に四十年以上携わっておられるとのこと。扱うのは刀剣・甲冑だけでなく、茶道具・書画・貨幣・骨董など、多岐にわたっています。

全国刀剣商業協同組合には百八十名の会員がいますが、営業基盤を首都圏にしている方が大半です。その経済規模に比し、組合員が少ないのが関西圏です。現在十名ほどのようです。大阪には当組合発足以前に、大阪府公安委員会認可の大阪美術刀剣業組合が創設されており、関西の刀屋さんたちが結束して活動していました。ただ、関連業者が少ないという理由だけではないようです。

その関西で濱崎さんは、博物館学芸員、大阪美術刀剣業組合理事など数々の公職をこなし、関東へ出てこられました。

刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

**紀伊国屋**

代表 **松浦孝子**

〒372-10812  
群馬県伊勢崎市連取町一八三六一  
TEL 〇二七〇-二六二七七七八  
FAX 〇二七〇-二六二八八七八

「限られた時間の中でできるだけのことをやる」をモットーに精進する毎日です。

濱崎さんのお嬢さんたちは二人とも、獣医さんであることを受け加えておきます。

有紀美術 〓〒660-0872 兵庫県尼崎市玄番北之町二三 ☎〇六六四二二一六九九

自分がいとも思っていて、お客さまに言っていることがあります。古美術品はお金をかけて集めるものでなく、筋の通っているもの、自分自身の気持ちに合ったものを探すこと。私はお客さまがいものを集めるための、舵取りの役目と思っています。

仕事をする際には、依頼してくださる方ときちんと話し合い、できるだけ要望に心えられるよう心がけているとのこと。特に刀剣の知識がない方から依頼があった場合には、取り扱いや鑑賞、手入れの仕方なども説明し、一層の関心を持ってもらえるような接客に努めておられます。

「限られた時間の中でできるだけのことをやる」をモットーに精進する毎日です。

研ぎ代は一寸八千円ですが、依頼内容や刀の状態によって変わることがありますので、相談してみてください。

連絡先 〓〒321-17290 栃木県宇都宮市下平出町八〇七二二 ☎〇九〇-五五五八二七九〇



〔研師〕枝松孝治さん

### 刀職紹介 第17回

催事情報

九州国立博物館

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2 ☎092-918-2807  
http://www.kyuhaku.jp/

九州国立博物館開館10周年記念特別展  
「戦国大名—九州の群雄とアジアの波濤」



- ・戦国大名の争覇から豊臣大名の登場と消滅まで、戦国九州のクライマックスともいえるべき16世紀後半の激動の歴史が一望できます。
- ・アジアの海を媒介として華々しく展開された、戦国九州と中国・朝鮮・琉球・東南アジア・ヨーロッパとの海外交流の歴史がわかります。
- ・国宝「婦女遊楽図屏風」(松浦屏風)、「唐物茶入新田肩衝」など、

開館記念特別展「美の国 日本」を彩った珠玉の名品9件と再会できます。

- 〈構成〉
- 第1章 大友宗麟の栄光と挫折
- 第2章 戦国九州を疾駆した大名たち
- 第3章 九州の大名とアジアの海

会期：4月21日(火)～5月31日(日)、月曜休館。ただし5月4日(月・祝)は開館

〈同時開催〉

中世刀剣の美—ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀—ふくやま美術館寄託の「小松コレクション」(登録美術品)は、「国宝太刀 銘筑州住左(江雪左文字)」をはじめ、国宝・重要文化財を多数含む国内有数の刀剣コレクションとして知られています。この度、ご所蔵者および寄託先であるふくやま美術館の全面的なご協力により、国宝7件、重要文化財5件の計12件を特別公開します。また、この公開に合わせて、九州国立博物館所蔵の「国宝太刀 銘来国光」も展示の予定です。開館10周年を迎えた当館で初めての本格的な刀剣の特集展示にして、「九州初お目見え」となる小松コレクション。中世刀剣の美をぜひご堪能ください。

会期：5月19日(火)～6月28日(日)

出品作品リスト

国宝	太刀	銘	正恒(附梨地桐紋蒔絵糸巻太刀拵)
国宝	太刀	銘	国宗(附黒蠟色塗打刀拵)
国宝	太刀	銘	吉房(附 蠟色塗打刀拵)
国宝	太刀	銘	筑州住左(江雪左文字)(附黒漆研出鮫鞘打刀拵)
国宝	太刀	銘	則房
国宝	短刀	銘	左/筑州住(太閤左文字)
国宝	短刀	銘	国光(名物会津新藤五)
重要文化財	太刀	銘	国清
重要文化財	刀	無銘	伝来国光
重要文化財	太刀	銘	備州長船兼光/延文三年二月日
重要文化財	太刀	銘	備前国長船盛景
重要文化財	短刀	銘	光包
国宝	太刀	銘	来国光
	刀	無銘	光忠

徳川美術館

〒461-0023 愛知県名古屋市東区徳川町1017 ☎052-935-6262  
http://www.tokugawa-art-museum.jp/

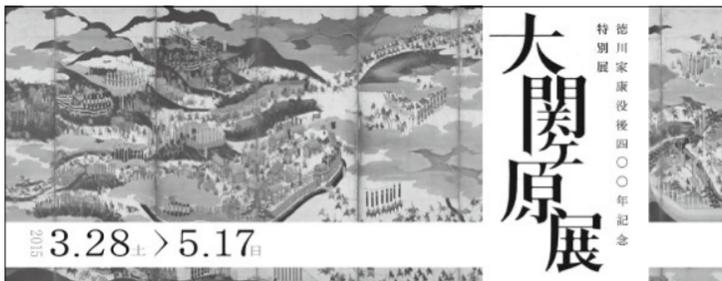
国宝 初音の調度—日本一の嫁入り道具—

千代姫は三代将軍家光の長女で、寛永16年(1639)、わずか数え年3歳で尾張徳川家二代光友にお嫁入りしました。千代姫の婚礼調度は、調度の意匠が『源氏物語』の「初音」の帖にちなんだ「初音の調度」が47件、同じく「胡蝶」の帖にちなんだ「胡蝶の調度」が10件、さらに染織品・金工品を加えた総計70件が現存し、一括で国宝に指定されています。

開館80周年を記念し、全点を一挙に公開いたします。

会期：4月11日(土)～5月31日(日)  
〈開催予告〉  
徳川家康—天下人の遺産—  
徳川美術館の収蔵品の骨格となる徳川家康の遺産は、江戸時代を通じて尾張徳川家第一の重宝として大切に守り伝えられました。徳川家康没後400年を記念し、尾張徳川家に伝来した家康の遺産「駿府御分物」「駿河御譲本」を通して、家康の生涯を

たどりまします。  
会期：8月1日(土)～9月13日(日)



江戸東京博物館

武器・武具が物語る関ヶ原の戦

江戸東京博物館で「大関ヶ原展」(三月二十八日～五月十七日)を鑑賞してきた。関ヶ原の戦というものが、歴史上、戦史上、どういう意味を持つのかということに前面に出した展覧会でした。

プロローグ「描かれた戦場」、第一章「秀吉の死—再乱の予感」、第二章「合戦の前夜」、第三章「決戦!関ヶ原」、第四章「戦後の世界—天下人への道のり」、第五章「徳川家康の素顔」、エピローグ「家康の神格化」と、場面をよく押さえ、直江状をはじめとした書状の類も数多く、充実した内容なのですが、「刀剣界」の取材を兼ねる小生としては、刀剣類・武具類をしっかりと鑑賞してきました。

光の作と伝えられる。豊後大友家から足利将軍家、さらに松永久秀に移り、もう一度大友家に戻り、そこから豊臣秀吉に献上、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡して徳川家の所有となり、明治維新を迎えて豊国神社が再建されると奉納され、今日に至る。



平成会熱海大会を開催

康の手を経て「駿府御分物」として尾張徳川家に伝来。というわけで、刀剣・武具ともまだまだたくさんあるし、前期と後期でも展示品の入れ替えが相当あるようです。ぜひご覧になることをお勧めしたいのですが、本紙の発行されるころには東京展は終了しています。

四月十日、平成会熱海大会が定宿であるあたま石亭で盛大に執り行われた。昨年のレポートでも触れたが、平成会は前身の諏訪会創立から優に三十年以上を数える。創設時から堅実の理念を伝え、現在も変わることなく受け継がれている会である。会場には早くから名品が並び、午前十時、今年から代表に就任された高橋歳夫会長の挨拶で競りに入った。